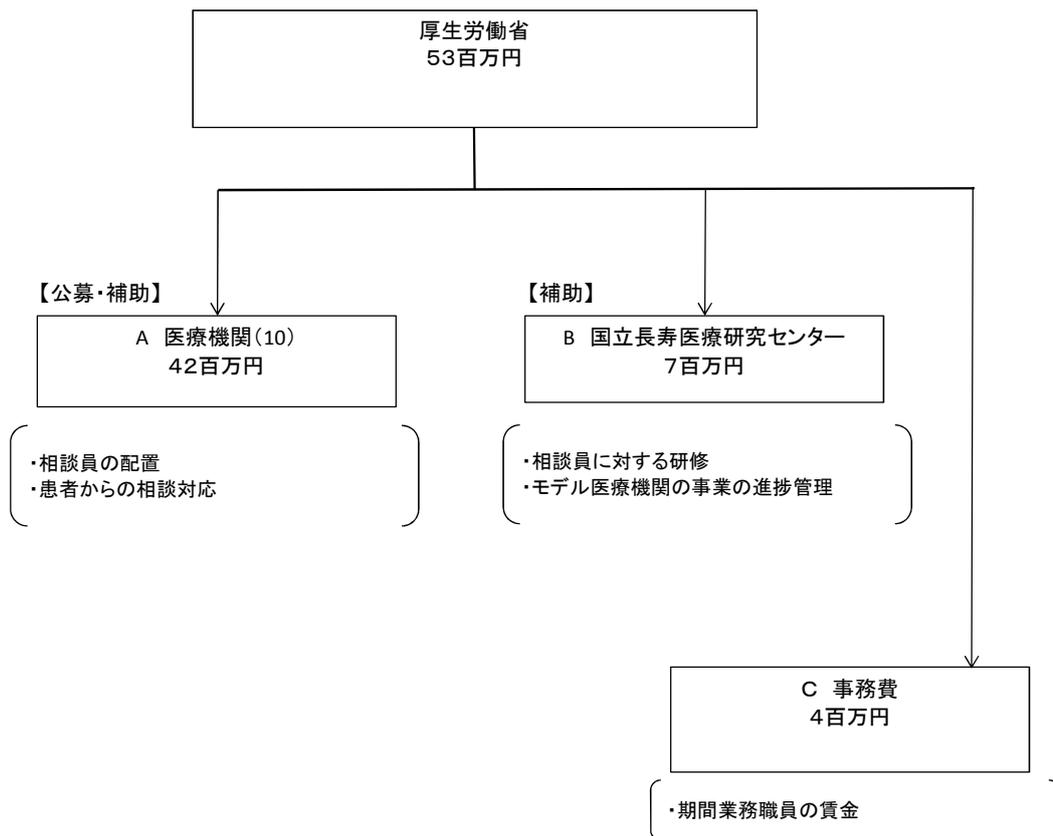


平成27年度行政事業レビューシート (厚生労働省)

事業名	人生の最終段階における医療体制整備等事業			担当部局庁	医政局			作成責任者
事業開始年度	平成26年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	地域医療計画課 在宅医療推進室			室長：佐々木 昌弘
会計区分	一般会計			政策・施策名	I-1-1 日常生活圏の中で良質かつ適切な医療が効率的に提供できる体制を整備すること			
根拠法令(具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	平成19年5月21日医政発第0521011号「終末期医療の決定プロセスに関するガイドラインについて」等			
主要政策・施策				主要経費	その他の事項経費			
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	終末期医療については、医療従事者から適切な情報提供と説明がなされた上で、患者が医療従事者と話し合いを行い、患者本人による決定を基本とすることから、患者の意思を尊重した終末期医療を実現する。							
事業概要(5行程度以内。別添可)	終末期医療のガイドラインを周知するとともに、モデル医療機関を選定し、終末期医療に関する相談支援員の配置や、困難事例の相談などを行うため委員会の設置など取組を実施していただき、課題や好事例の収集、これに基づく普及に向けた取組の検討を行う。							
実施方法	直接実施、委託・請負							
予算額・執行額(単位:百万円)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度要求		
	予算の状況	当初予算	-	-	54	32		
		補正予算	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-		
		計	0	0	54	32	0	
	執行額	0	0	53				
執行率(%)	-	-	98%					
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 27年度
	人生の最終段階における医療に関する患者の意思決定支援を行う医療機関の増加	成果実績	%	19.7	-	-	-	-
		目標値	%	-	19.7	-	-	-
		達成度	%	-	-	-	-	-
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標	活動実績		単位	24年度	25年度	26年度	27年度活動見込
	モデル事業実施機関数(事業実施者)	活動実績	箇所	-	-	10	-	-
		当初見込み	箇所	-	-	10	5	-
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標	活動実績		単位	24年度	25年度	26年度	27年度活動見込
	モデル事業実施機関数(評価機関)	活動実績				1	-	-
		当初見込み				1	1	-
単位当たりコスト	算出根拠	算出根拠		単位	24年度	25年度	26年度	27年度見込
	<事業実施者>	単位当たりコスト	千円	-	-	4,600	5,200	-
		計算式	X / Y	-	-	46,000/10	26,000/5	-
単位当たりコスト	算出根拠	算出根拠		単位	24年度	25年度	26年度	27年度見込
	<評価機関>	単位当たりコスト	千円	-	-	7,000	6,000	-
		計算式	X / Y	-	-	7,000/1	6,000/1	-
平成27・28年度予算内訳(単位:百万円)	費目	27年度当初予算	28年度要求	主な増減理由				
	庁費	4						
	衛生関係指導者養成等委託費	28						
	計	32	0					

事業所管部局による点検・改善					
		項目	評価	評価に関する説明	
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	社会保障制度改革推進法等において、人生の最終段階の医療体制の整備が求められるなど、ニーズは大きい。国民的議論が必要な施策であり、国費の投入が必要。	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	国が今後の施策の方針を示すための事例収集等の事業であり、国が実施すべき事業である。	
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	社会保障制度改革推進法等にそった重要な施策であり、優先度は高い。	
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	評価委員会を設置して事業者を選定しており、選定は妥当である。	
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○	国が今後の施策の方針を示すための事業であって、国が全額負担すべきであり、負担関係は妥当である。	
	単当たりコスト等の水準は妥当か。		○	合理的でかつ必要な経費に限られているため、単当たりコストの水準は妥当である。	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		○	都道府県が中間段階に入っており、必要な精査がなされているものとする。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	事業目的の達成に必要なもののみ補助を行っており、真に必要なものに限定されている。	
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-		
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか		-		
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか		△	成果指標について、5年に1回把握する仕組みであるため、現時点で達成度について把握できていない。	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		-		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	見込みどおりの実績となっている。	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		-		
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-		
	所管府省・部局名	事業番号	事業名		
点検・改善結果	点検結果	成果目標の達成度について、5年に1回把握する仕組みであるため、現時点で把握できていないが、活動実績であるモデル事業の実施機関数の目標は達成している。			
	改善の方向性	現行の成果指標は国民も含めた意識調査により得られるデータであり、頻回に実施することができないため、新たな成果指標を設定し、確実に成果を把握できるよう、事業設計の精査を続けるとともに、更なる効率化等についても検討していきたい。			
外部有識者の所見					
行政事業レビュー推進チームの所見					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況					
備考					
関連する過去のレビューシートの事業番号					
平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	-
平成25年度	-	平成26年度	新26-004		

※平成26年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
しているかについて補足する)
(単位: 百万円)

	計		0	計	0

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	国立循環器病研究センター	相談員の配置、患者からの相談対応、普及啓発事業	4.3	—	—
2	西岡病院	相談員の配置、患者からの相談対応、普及啓発事業	4.3	—	—
3	くわみず病院	相談員の配置、患者からの相談対応、普及啓発事業	4.3	—	—
4	長良医療センター	相談員の配置、患者からの相談対応、普及啓発事業	4.3	—	—
5	南魚沼市立ゆきぐに大和病院	相談員の配置、患者からの相談対応、普及啓発事業	4.3	—	—
6	稲次整形外科病院	相談員の配置、患者からの相談対応、普及啓発事業	4.3	—	—
7	岩手県立二戸病院	相談員の配置、患者からの相談対応、普及啓発事業	4.3	—	—
8	亀田総合病院	相談員の配置、患者からの相談対応、普及啓発事業	4.2	—	—
9	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター	相談員の配置、患者からの相談対応、普及啓発事業	4	—	—
10	諏訪赤十字病院	相談員の配置、患者からの相談対応、普及啓発事業	3.9	—	—

B.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	国立長寿医療研究センター	相談員に対する研修、モデル医療機関の事業の進捗管理	7	—	—

C.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	期間業務職員	事務補助	4	—	—